

しまねの



特集

第43号

パート2

# 男女共同参画社会と大学生の意識

～「大学生向けライフデザインに関するアンケート(第2回)」より～

## 目次

- 5年ぶりのアンケート調査の結果から  
～男女共同参画がもたらす新たな問い～  
片岡佳美さん(島根大学法文学部教授) ..... 2
- 「大学生向けライフデザインに関する  
アンケート(第2回)」結果の概要 ... 4
- ポケットクイズ ミニ解説 ..... 7
- リレーコラム ..... 7
- 講座レポート ..... 8
- お知らせ ..... 8

ご存じですか?! ひとひとの参画関係

## あすてらすポケットクイズ

毎号、特集テーマに関連した男女共同参画に関するクイズ等を出题します。心のポケットにしまっておきたい、ポケットからちょっと取り出して伝えたい情報をご紹介します。ぜひチャレンジしてみてください。

### 世代による意識の差

(平成26年「男女共同参画に関する  
県民の意識・実態調査」との比較より)

問題

男女の役割等に関する3つの意識「男は仕事、女は家庭」、「女性は気配り、男性は決断力」、「子育ては母親」について、大学生の回答と20歳以上の全世代を対象にした調査の回答を比べると・・・?

- ① 3つとも大学生の方が否定的
- ② ほぼ同じ
- ③ 1～2つは全世代の方が否定的

※答えは6頁のミニ解説【データ編】へ

# 男女共同参画社会と大学生の意識 パート2

## ～「大学生向けライフデザインに関するアンケート(第2回)」より～

島根県では、大学生を対象に「若者に向けた男女共同参画推進啓発事業」を展開し、若者世代が男女共同参画の意義を理解し、その視点を持って人生設計する力をつけることをめざしています。そして、平成25年には、大学生たちの性別役割や結婚・出産、仕事と家庭のバランス等についての意識を知るために、県立大学1年生を対象にアンケート調査を実施しました。それから5年経って、同じ県立大学1年生の考え方にはどのような変化があったのでしょうか。今年10月に実施した、第2回のアンケート結果から、その傾向を見てみましょう。

## 5年ぶりのアンケート調査の結果から

### ～男女共同参画がもたらす新たな問い～

島根大学法文学部教授 片岡佳美

5年ぶりに行われた、島根県立大学の学生を対象にした「大学生向けライフデザインに関するアンケート」。前回に続き今回も、結果についてコメントを書く機会をいただきました。

前回のアンケートでは、回答者の大多数が「男は外で働き、女は家庭を守るべきである」という性別分業に反対していることが示されました。ところが、別の問いへの回答を見ると、依然として「男は〇〇、女は△△」という性別に基づいた役割規定に肯定的な意見も多く見られました。妻だけでなく夫も家事・育児に参加することや、夫だけでなく妻も家計収入を稼ぐことについても、賛成はするものの「手伝い」や「補助」のレベルでよいとする男女が多数を占めていました。これらから、前回のコメントで私は、大学生たちに支持されているのは、「ゆるやかな性別役割分担」であると述べたのです。

さて、今回のアンケートの結果はどうだったのでしょうか。「男は外で働き、女は家庭を守るべきである」については、男女とも反対派の割合が前回よりさらに増大し、女性では実に9割、男性では8割にまで達しました。「女性には細やかな気配りが、男性にはいざというときの決断力が必要だ」「子育てはやはり母親でなくてはと思う」のそれぞれについても、男女とも、反対する割合が大きく伸びました。「男は〇〇、女は△△」というステレオタイプな性別役割について、大学生はますます否定的になっています。

では、「ゆるやかな性別役割分担」についてはどう捉えられているのでしょうか。アンケートでは、自分が将来結

婚したときの、夫と妻の間での家事・育児の分担のあり方と、家計収入の分担のあり方についての希望を尋ねています。回答は、夫のみ行う・夫が主で妻が補助(=夫が中心で妻が手伝う)・ほぼ均等・妻が主で夫が補助(=妻が中心で夫が手伝う)・妻のみ行うといった5択から選ぶようになっています。今回の結果を見ると、家事・育児にせよ家計収入にせよ、夫のみ、あるいは妻のみが単独で行うことを希望する割合は非常に小さいものでした。また、従来型性別役割の逆パターンの分担を希望するケースもごくわずかしかなかった。家事・育児の分担については、「妻が中心で夫が手伝う」「ほぼ均等」の回答、家計収入については、「夫が主で妻が補助」「ほぼ均等」の回答がほとんどを占めたのです。

そこで、家事・育児と家計収入のそれぞれについて、一方が中心で他方が補助という「ゆるやかな性別役割分担」とするか、男女均等分担とするかでグループ分けし、それぞれの割合を比較してみました。それを性別、および前回との比較をしたのが図1です。

前回と比べ、男女とも、家事・育児も家計収入も、夫と妻が均等に担うことを望ましいとする割合が増大しています。女性は21.3%から35.0%に、男性は20.3%から40.0%に増えました。一方で、家事・育児では妻が中心で夫が補助となり、家計収入では夫が中心で妻が補助となるといった、ゆるやかな性別役割分業を望ましいとする割合は、男女とも前回よりも減少しています。

		収入				収入	
		夫=妻	夫>妻			夫=妻	夫>妻
(2013年女性)	家事育児	21.3	21.0	(2013年男性)	家事育児	20.3	28.6
		夫<妻	14.3		43.5		夫<妻
(2018年女性)	家事育児	35.0	24.3	(2018年男性)	家事育児	40.0	26.0
		夫<妻	11.7		29.1		夫<妻

図1 家事・育児と家計収入の分担についての希望 (%)

※「夫=妻」は「ほぼ均等(半分ずつ)」、収入の「夫>妻」は「夫が主で妻が補助」、家事育児の「夫<妻」は「妻が中心で夫が手伝う」を表す。

男性の家事・育児参加も珍しいことではなくなった最近では、いつまでも「お手伝い気分」の夫にモヤッとした思いを抱かずにいられないという妻が多くなっているという話もよく見聞きします。今回のアンケートでは、男性のほうが女性よりも、家事・育児の均等分担を希望している割合が大きかったのですが、これは男性においても「お手伝い気分ではダメだ、妻と同じく主たる担い手にならなくては」という意識があることを示していると言ってよいでしょう。

家計収入についても、専業主婦世帯が大きく減少しているなか、夫だけが稼ぎ手というパターンより夫も妻も稼ぐというパターンのほうがふつうと感じられるようになっています。今回のアンケートでも、「子どもができるまでは仕事を続ける(=子どもができたら仕事をやめる)」ことを希望する女性は5.6%、妻にそれを望んでいる男性は7.4%と、ごくわずかでした。

このように男女がともに、家庭と仕事、いずれの領域でも夫と妻が対等に役割を担うことを理想とするようになってきているのなら、結婚生活では互いに相手方への不満や葛藤も生じず、さぞ円満になるであろうと想像します。けれども、かれらはそもそも結婚に対してあまり意欲的ではなくなっているのです。

結婚に関する考えを尋ねた問いでは、前回アンケートに

おいては女性56.4%、男性57.0%が「ぜひしたい」と答えていました。ところが、今回は女性45.6%、男性34.5%と減少しています。また、子どもを持ちたいかと尋ねた問いでは、前は女性66.1%、男性65.5%が「ぜひほしい」と答えていましたが、今回は女性56.5%、男性40.5%と、こちらも減少しています。5年前と比べて増えたのは、結婚は「機会があればしたい」「どちらとも言えない」、子どもは「どちらかと言えばほしい」「どちらとも言えない」でした。結婚も子どもも、否定はしないがべつに絶対必要ではない、ということです。

日本では未婚率が上昇しており、こうした結果もそのことと無縁ではないでしょう(国勢調査によれば、30代前半の未婚率は1960年では男女とも10%程度でしたが、2015年は男性47.1%、女性34.6%となっていました)。性別にかかわらず男女が対等にあらゆる活動に参画し共に責任を担う、という男女共同参画の考えが浸透してくるにつれ、男女が協力して家族生活をつくり上げることから距離を置く人も増えるというのは、少し皮肉にも感じます。

前回のアンケートにおいて、学生たちがゆるやかな性別役割分担を選好していたことについて私は、夫と妻があらゆる領域で対等な担い手として関わっていくことによって葛藤や対立が増えるというリスクを回避したいからではないかと考えました。今回は、夫と妻がそうしたリスクに立ち向かってでも対等になるべきだという考えが広がっていることが明らかになりました。それは言い換えれば、結婚することや子どもを持つことは、そういうリスクと向き合うことだと捉えられるようになったということだと言えます。しかしそれゆえに学生たちは、そんなリスクを負ってまで結婚や子どもを持つことが自分自身にとって値打ちのあることなのか、考えるようになったとも考えられます。

なぜ結婚するのか。なぜ子どもをもつのか。いよいよ、そんな問いが投げかけられるような時代になってきているのかもしれません。



## 片岡佳美 (かたおかよしみ) さん プロフィール

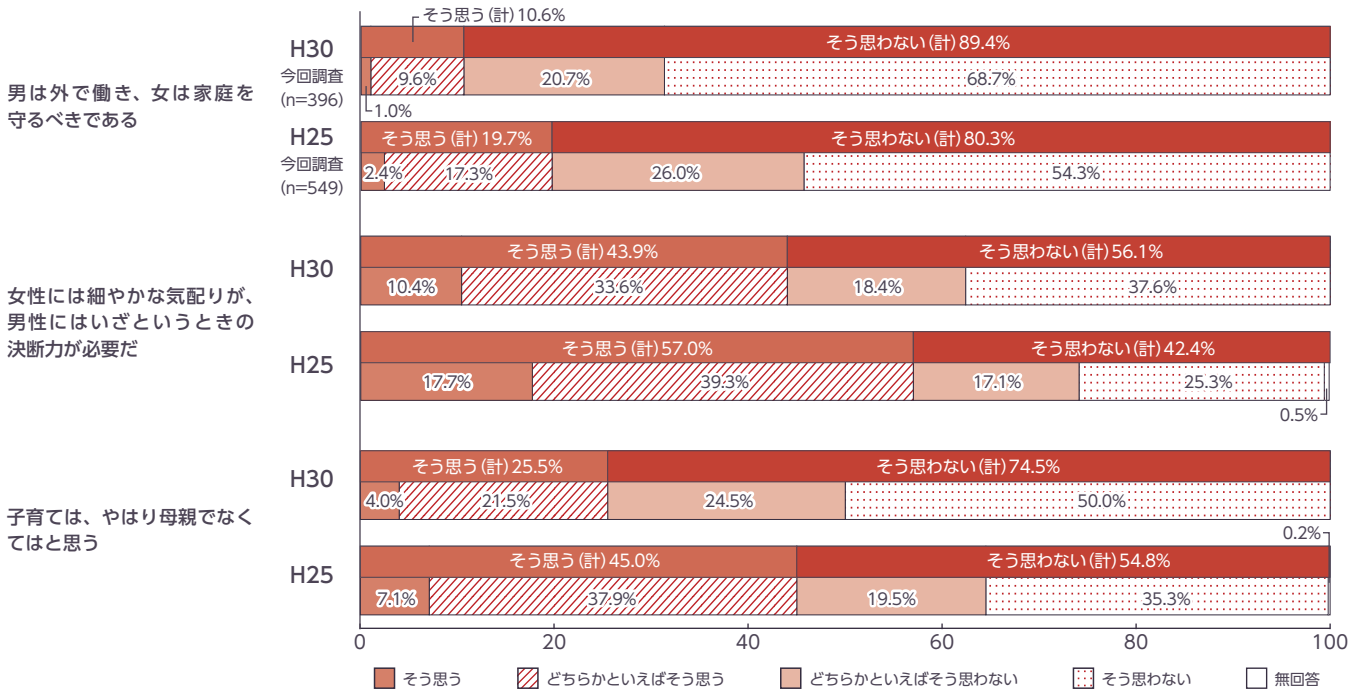
島根大学法文学部教授。専門は家族社会学。

著書に『論点ハンドブック家族社会学』(共著, 世界思想社)、訳書に『家族実践の社会学』(共訳, 北大路書房) などがあり、先般、エッセイ『子どもが教えてくれた世界一家族社会学者と息子と猫と』(単著, 世界思想社)を上梓した。

# 「大学生向けライフデザインに関するアンケート(第2回)」結果の概要

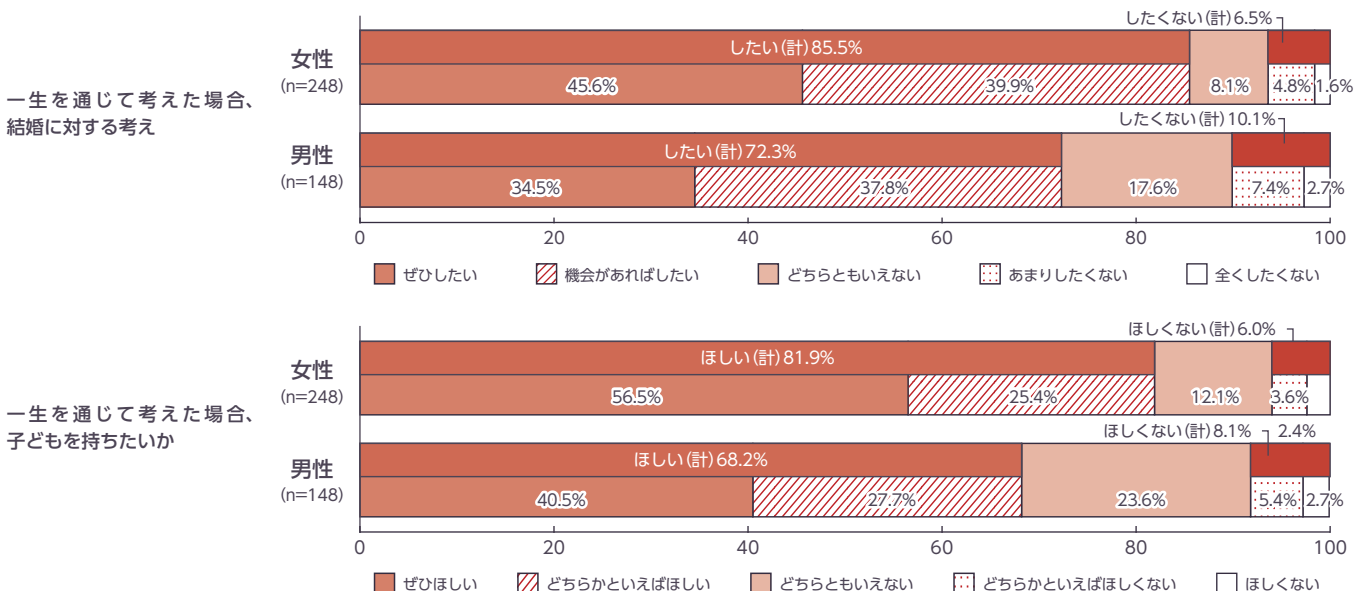
## 男女の役割等に関する意識

典型的な性別役割分担意識を示す「男は仕事、女は家庭」を始め、「女性は気配り、男性は決断力」、「子育ては母親」のいずれの考え方についても、否定的な人の割合の方が肯定的な人の割合を上回っています。前回調査と比べると、3問とも否定的な人の割合が増え、特に「子育ては母親」、「女性は気配り、男性は決断力」の考えに否定的な人が大きく増えました。



## 結婚、子どもについての希望

将来の結婚や子どもについては、女性の8割以上がしたい、ほしいと考えていますが、男性はいずれもこの割合が女性より低くなっています。



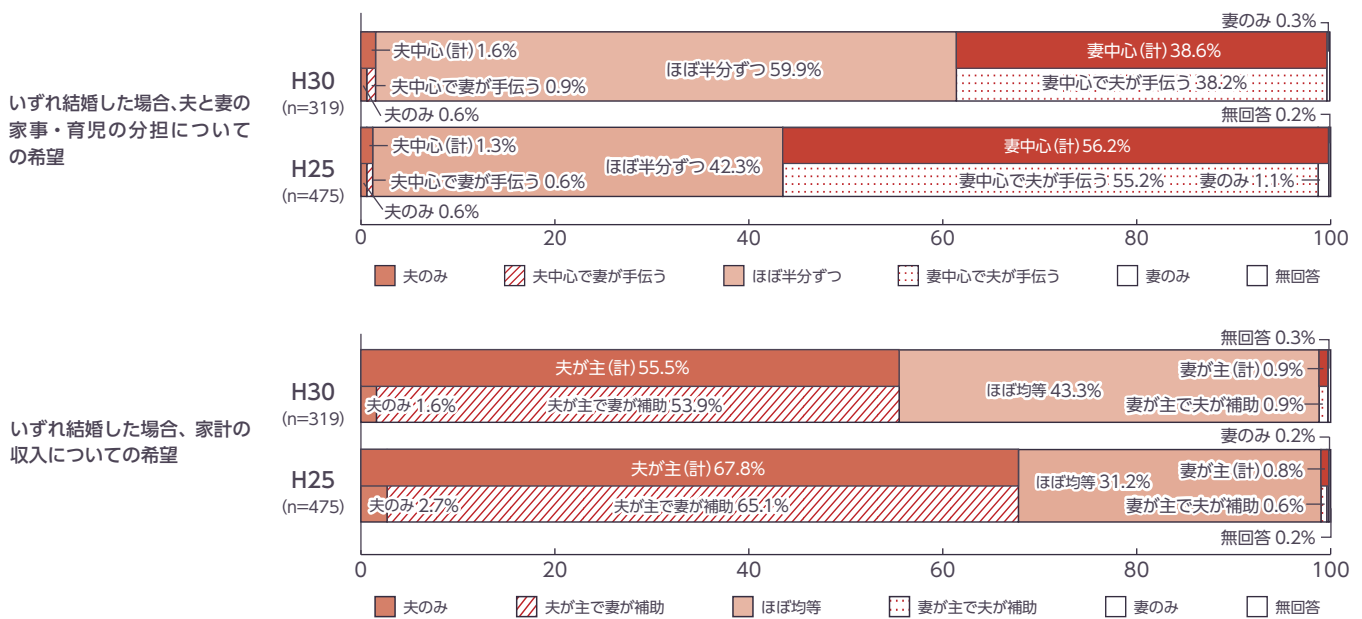


【大学生向けライフデザインに関するアンケート調査(第2回)】 [調査主体: (公財)しまね女性センター]

- 調査の対象 島根県立大学(浜田・出雲・松江の全キャンパス) 1年次に在籍する学生
- 有効回収数 396人(女性248人、男性148人)

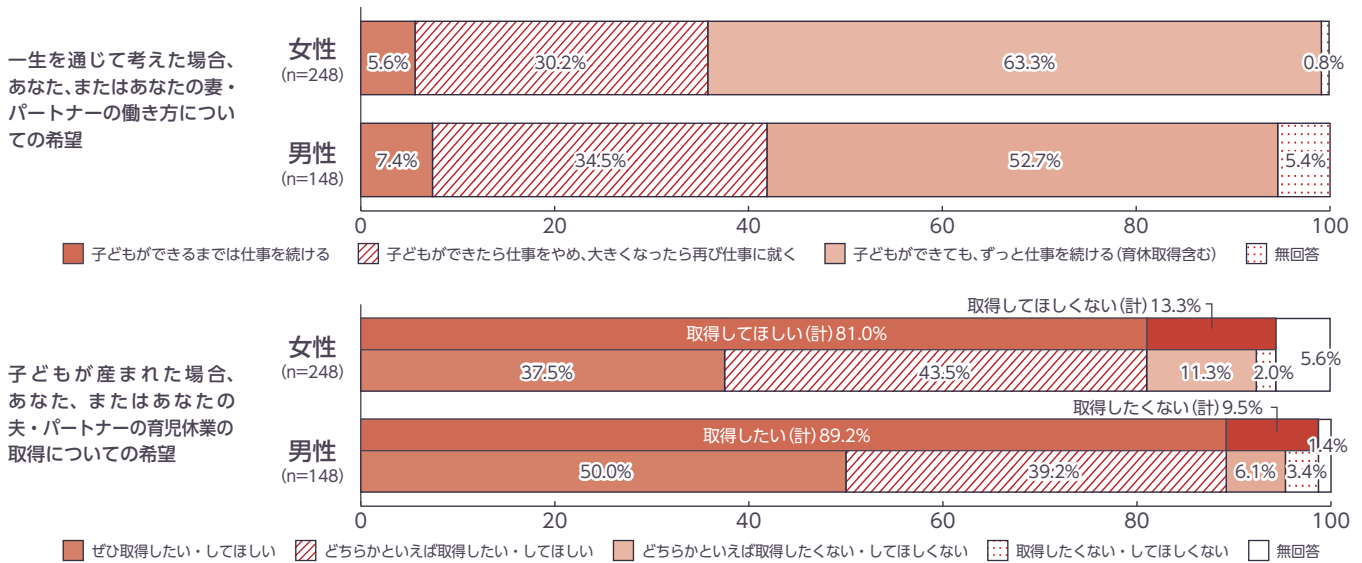
結婚後の家庭内での役割についての希望

将来結婚したいと回答した人(319人)を対象に、結婚後の家庭内の役割について希望を尋ねると、家事・育児については夫と妻で「ほぼ半分ずつ」を、家計の収入についても夫と妻で「ほぼ均等」を希望する割合が前回調査より増えていますが、それでも、家計の収入については、「ほぼ均等」よりも「夫が主」とする割合の方が今回も高い値です。



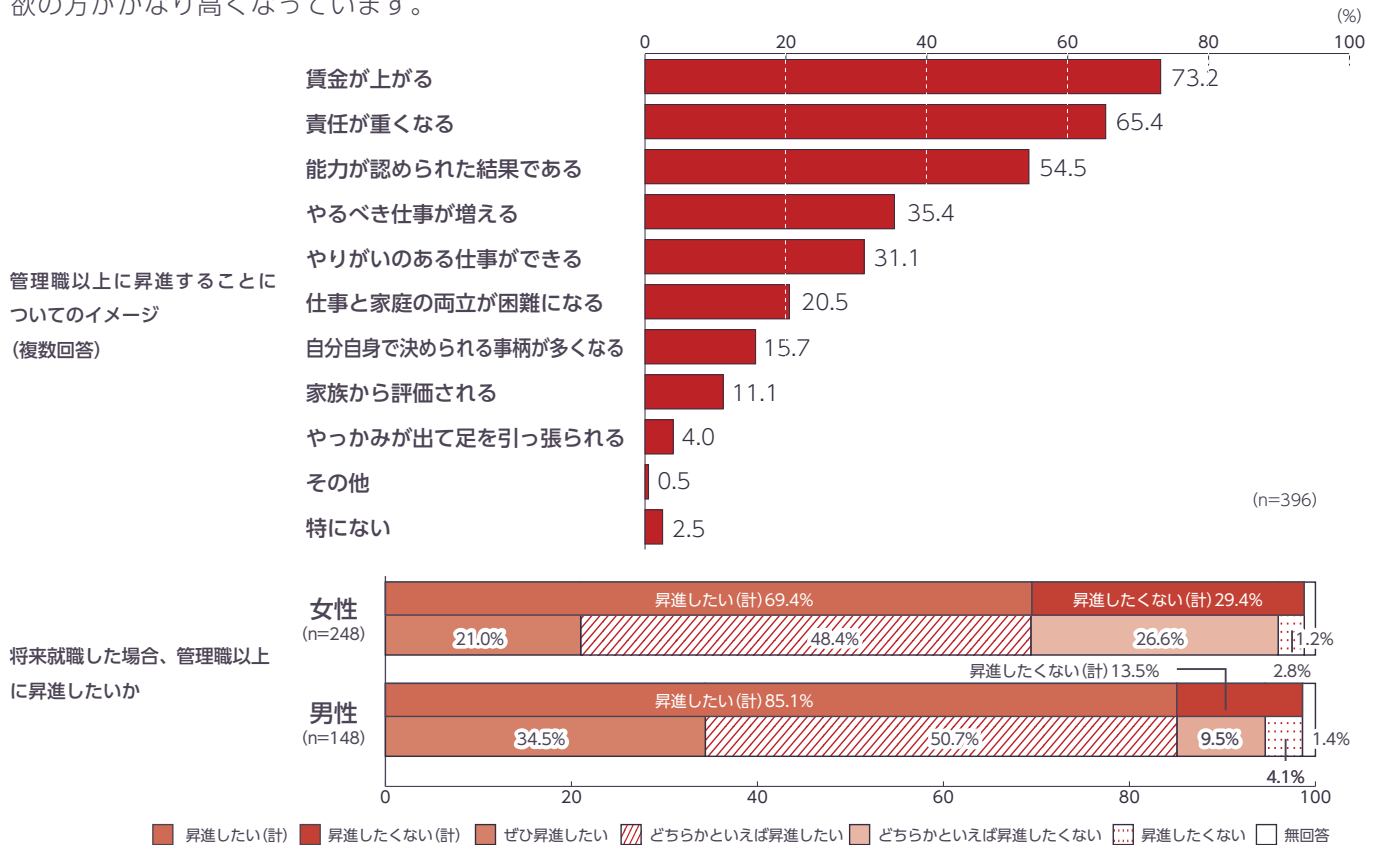
## 働き方についての希望

女性の働き方について、「子どもができて、ずっと仕事を続けたい(育児休業の取得を含む)」という「就労継続型」を希望する女性は6割を超え、妻・パートナーの就労継続を希望する男性よりも多くなっています。また、子どもが産まれた場合の男性の育休取得についても、取得を希望する男性の割合(計)の方が夫・パートナーの取得を希望する女性割合(計)よりも高く、当事者となる側の方が就労継続意欲、育休取得意欲とも高いという結果です。



## 昇進についての考え

管理職以上への昇進については、「賃金が上がる」というイメージが最も高く、これに「責任が重くなる」、「能力が認められた結果である」が続いています。また、実際に将来昇進したいかについては、女性より男性の昇進意欲の方がかなり高くなっています。



調査結果の詳細をお知りになりたい方は、下記宛にご連絡ください。

公益財団法人しまね女性センター 〒694-0064 島根県大田市大田町大田イ236-4  
 tel:0854-84-5514 fax:0854-84-5589 e-mail:asu-08@asuterashimane.or.jp

【問題】 男女の役割等に関する3つの意識の世代による差

答え

① 3つとも大学生の方が否定的

今回の大学生向けの調査と、島根県で平成26年に20歳以上の県民2,000人を対象に実施した「男女共同参画に関する県民の意識・実態調査」(以下「H26県調査」)を比べると、「男は仕事、女は家庭」、「女性は気配り、男性は決断力」、「子育ては母親」といういずれの考え方についても、今回の大学生調査の方が否定的な人の割合が大きくなっています。しかも、この割合の差は、「男は仕事、女は家庭」で24.2ポイント、「女性は気配り、男性は決断力」で28.5ポイント、「子育ては母親」で45.4ポイントと、かなり大きな開きがあります。もちろん、2つの調査は実施時期が違いますし、対象者の抽出方法も異なるなど単純に世代比較してよいわけではありませんが、H26県調査は島根県の高齢化の影響もあって回答者の約半数が60代以上という点も踏まえると、10代という若い世代中心の大学1年生とそれより上の世代との間には、男女の役割等に関して大きな意識の開きがあると推察できるでしょう。

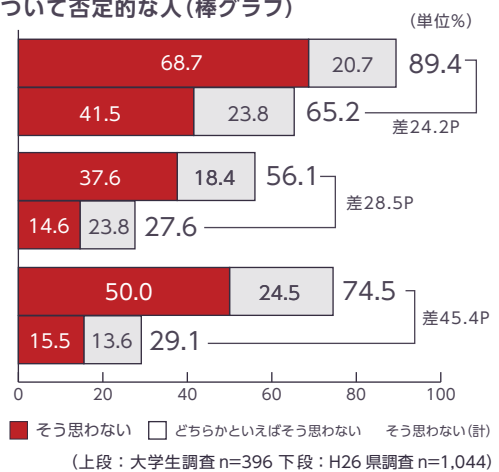
島根県では、第3次男女共同参画計画の中で、男女共同参画社会づくりに向けた意識形成の一環として、「男は仕事、女は家庭」という固定的な性別役割分担意識にとらわれない人の割合を平成31年までに80%以上とする数値目標を掲げています。今回の調査対象だった大学生の皆さんにならって、この目標値を全世代的に達成するためにも、しまね女性センターとしても様々な事業を通してしっかりと意識啓発に努めたいと思います。

固定的な男女の役割等について否定的な人(棒グラフ)

男は外で働き、女は家庭を守るべきである

女性には細やかな気配りが、男性にはいざというときの決断力が必要だ

子育ては、やはり母親でなくてはと思う



リレーコラム vol.12

男女の進路選択

昨年度は約1年間の産休・育休をいただき、三児の母となって戻ってまいりました。うちでは子どもが生まれると、将来に備えて積み立て型の学資保険に入っています。特に上の二人は2歳違い。教育費がかかる時期が重なり、早くから備えておかないと負担が大きくなるのは目に見えているので…。第二子(長男)出産後、保険会社の方のアドバイスは今でもよく覚えています。「女の子は進学しなかったり、短大に進学することもあります。男の子は大学に行く可能性が高いし、もし医学部にでも入ったらかなり費用がかかるから、長男さんの教育費は長女さんよりも余裕を持って考えた方がいいですよ。」というもので、もちろんよかれと思ってのこと。当時はまだ前職に就いていたこともあり、そういうものかと納得して、長男の方の積立金額を手厚くしました。

確かに男女の大学進学率には差があって、男子の方が高いのですが、女子は長期的に見て上昇傾向にあります。うちの末っ子が進学する頃には、この差はすっか

りなくなっているんじゃないかと私は思います。

今年は大卒と男女の問題に関して大きなニュースがありましたね。某医科大学医学部の入試で、女子受験生(と浪人回数の多い受験生)が不正な得点操作によって不合格とされていた問題です。この背景には、女性医師が増えると、妊娠出産で離職したり働き方が制限されることにより病院経営がまわらなくなるという危機意識があるようですが、解決策の方向性が根本的に間違っていると思います。女性センター職員としても、娘を持つ親としても衝撃と憤りをもって受け止めたニュースでした。向学心のある子どもたち、夢を抱く学生たちが、性別によって選択肢を狭められないことがない社会であって欲しいです。ちなみに末っ子の学資保険は、彼女がどんな選択をしても応援できるようにと考えて決めています。(予算の範囲内で!)

公益財団法人しまね女性センター 専門員  
漆谷佑美子



## 男女共同参画と防災 (全2回)

●と き ①平成30年7月31日(火) 19:00~21:00 ●ところ 邑南町田所公民館  
② 8月29日(水) 19:00~21:00

●主 催 邑南町、島根県男女共同参画サポーター(邑南町)、島根県、(公財)しまね女性センター



第1回HUGの様子

昨年度まで市町村と共催でその地域に出向いて実施してきた男女共同参画お届け講座。今年度からより一層地域の男女共同参画サポーター・市町村との連携を深めて企画・実施するために、「地域に向けた男女共同参画推進事業」としてリニューアル。今年度の実施先3カ所のうち、邑南町では「防災」をテーマにした2回連続講座を実施しました。

第1回は避難所運営ゲーム\*を男女共同参画の視点で体験。以前体験したことのあるサポーターからの「ぜひ、地元の人にも体験して欲しい!」という声で実施することになりました。ゲーム終了後には、役割で男女に偏りがなかったか、授乳室や妊産婦用の部屋を設置したかなどの振り返りを行い、参加者が避難時に必要な視点について考えるきっかけになりました。

第2回は、「男女共同参画の視点で考える～防災・減災・復興～」をテーマに講義とワーク。講師には、兵庫県からNPO政策研究所専務理事の相川康子さんをお招きしました。講義

の最初に関西弁と標準語のどちらで講義をするか、多数決をとりました。その結果、なんと関西弁での講義に決定。会場からは笑いが起こり、おかげで深刻な話も深刻になりすぎずに受け止めることが出来ました。阪神・淡路大震災の際に、女性など弱い立場の人のニーズが理解されず後回しにされたことや、10年後の災害でもそういった問題点が改善されていないなど、参加者は熱心に聞き入り、災害時は誰もが被災者になり、多様なニーズが求められる中で、男女共同参画の推進が必要であると学びました。後半は、グループに分かれ、どうすれば防災意識が高められるかを考えました。「年に一度避難所に泊まってみる」、「集落でウォーキングをして、危険なところがないかチェックする」など、短時間で様々なアイデアが生まれました。

今回の講座は邑南町在住のサポーターの皆さんが企画から集客、運営まで主体的に関わられました。地元的事情を考慮しての開催時期・時間の設定、地域に直接出向いての参加呼びかけなど、皆さんの協力によって地域密着型の講座が実現できました。



第2回講師：相川康子さん

\*避難所運営ゲーム「避難所HUG(ハク)」

様々な事情を抱える避難者(カード)を避難所に見立てた平面図に、いかに適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応するか模擬体験するゲーム。【制作：静岡県危機管理本部危機情報課】

あすてらすからの

お知らせ



### 「あすてらす開館20周年記念イベント」 開催準備中です!

1999年4月に開館した島根県立男女共同参画センター「あすてらす」は、来年20周年を迎えます。これまでの「あすてらす」のあゆみをふりかえるとともに、今後もより一層幅広い県民のみなさまに活用いただける施設となるよう、プロジェクトチームを結成し企画しています。

開催予定日

2019年11月15日(金)・16日(土)

天井耐震補強工事に伴う  
あすてらすホールの使用中止について

期間：2019年1月4日(金)～9月30日(月)(予定)



島根県立男女共同参画センター

# あすてらす

〒694-0064 大田市大町大田イ236-4 (JR大田市駅西隣)  
TEL 0854-84-5500(代) FAX 0854-84-5589  
ホームページアドレス <http://www.asuterasu-shimane.or.jp/>

利用のご案内

(( 誰でも気軽に利用できます! ))

- 開館時間/9:00~19:00(貸出し施設については21:00まで)
- 休館日/毎週月曜日・国民の祝日、年末年始(12月29日~1月3日)